

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間の尊厳と自立		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 7	時間数(単位数) 5.8時間	配当学年・時期 2月第2週目		必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 介護職である前に人としての基本的な相手を尊重する気持ちと観点を持ち、これからの学習の基盤となる姿勢を身につける					
[授業全体の内容の概要] 人間の多面的な理解と尊厳、自立・自律の支援、人権と尊厳について解説する					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人間の多面的な理解と尊厳</u> (1) ・ <u>自立・自律の支援</u> (3) ・ <u>人権と尊厳</u> (3) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第1巻 人間と社会			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護保険制度の理解 (社会の理解 I)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 8	時間数(単位数) 6.5時間	配当学年・時期 2月第2週目	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択		
[授業の目的・ねらい] 介護保険制度が創設された背景や経緯を振り返り、その内容の理解や制度における介護福祉士などの役割、立場を理解する					
[授業全体の内容の概要] 介護保険制度創設の背景と目的、制度の基礎的な内容の理解、制度における介護福祉士をふくめた専門職の役割について説明する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職等の役割等を理解し、利用者等に助言できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護保険制度創設の背景と目的</u> (2) ・ <u>介護保険制度の基礎的理解</u> (4) ・ <u>介護保険制度における専門職の役割</u> (2) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第1巻 人間と社会			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会のしくみの理解 (社会の理解Ⅱ)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 36	時間数(単位数) 30時間	配当学年・時期 2月第2週目～3週目	必修 ・ 選択		
[授業の目的・ねらい] 自らも含めた利用者の生活をあらためて学問的な視点からとらえ、社会や家族、地域のあり方やその機能、時代による変化等を知る。様々な社会保障制度や障害者自立支援制度、その他関連の制度の概要を知る。					
[授業全体の内容の概要] 生活と福祉、社会保障制度、障害者自立支援制度、介護実践に関わる諸制度について解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 家族、地域、社会との関連から生活と福祉を捉えることができる。社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生活と福祉</u> (6) ・ <u>社会保険制度</u> (12) ・ <u>障害者自立支援制度</u> (12) ・ <u>介護実践にかかわる諸制度</u> (6) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第1巻 人間と社会			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護福祉士と介護の考え方 (介護の基本 I)		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 12	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 2月第4週目		<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 社会的な状況や介護福祉士法、介護福祉士倫理綱領が求める専門職としてのありかたについて知る。 専門職として提供する介護サービスの向かうべき方向について認識する。					
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士の制度と倫理、利用者の尊厳の保持と自立に向けた介護の考え方とその展開について解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。 個別ケア、ICF (国際機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止、虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を順守している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 ・ <u>介護福祉士の制度</u> (3) ・ <u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u> (6) ・ <u>介護福祉士の倫理</u> (3)					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第2巻 介護 I			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護福祉士による介護実践 (介護の基本Ⅱ)		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 24	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 2月第18週目～3月1週目	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択		
[授業の目的・ねらい] 利用者の生活を理解し、関係機関や職種と連携しながら課題の解決に向かうための知識を得る。 介護実践現場におけるリスクマネジメントに関して理解する。 介護福祉士として自身の健康管理ができるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とするひとの生活の理解と支援、介護実践における連携、安全の確保とリスクマネジメント、介護福祉士の安全について解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u> (6) ・ <u>介護実践における連携</u> (6) ・ <u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u> (6) ・ <u>介護福祉士の安全</u> (6) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第2巻 介護Ⅰ			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 27	時間数(単位数) 22.4時間	配当学年・時期 3月第1週目～2週目		<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 利用者や家族と確かな信頼関係を築くための技術を身に着け、より円滑なコミュニケーションを図れるよう技法を学ぶ。 有用な報告や記録の書き方を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 介護におけるコミュニケーションとその技法、利用者・家族あるいはチーム内でのコミュニケーションのとりかたについて解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 利用者・家族とのコミュニケーション、相談援助の技術を修得している。 援助関係を構築し、ニーズや意欲をひきだすことができる。 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護におけるコミュニケーション</u> (2) ・ <u>介護におけるコミュニケーション技術</u> (7) ・ <u>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</u> (9) ・ <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u> (9) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第2巻 介護Ⅰ			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 自立に向けた介護の方法 (生活支援技術 I)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子
授業の回数 24	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 3月第2週目～3週目	必修 ・ 選択
[授業の目的・ねらい] ICFの視点から利用者の生活をアセスメントし、福祉用具や居住環境要因を活かしながら、自立に向けた介護を行うにあたっての基本を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 生活のアセスメント、福祉用具や居住環境、生活の各場面での介護についての基礎的知識を解説する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。 「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「家事援助」のそれぞれについて、介護技術の基本を修得している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生活支援とICF</u> (3) ・ <u>居住環境の整備と福祉用具の活用</u> (3) ・ <u>移動・移乗の介護技術の基本</u> (3) ・ <u>食事の介護技術の基本</u> (3) ・ <u>入浴、清潔保持の介護</u> (3) ・ <u>排泄の介護技術の基本</u> (3) ・ <u>着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本</u> (3) ・ <u>家事援助の基本</u> (3) 			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第2巻 介護 I		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 利用者の心身の状況に応じた介護 (生活支援技術Ⅱ)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子
授業の回数 39	時間数(単位数) 32.5時間	配当学年・時期 3月第3週目～4週目	<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択
[授業の目的・ねらい] 前章で学んだことを活かしながら、実際の利用者の状態を想定して行う介護の流れをシミュレーションし、理解する。			
[授業全体の内容の概要] 様々な状態の利用者に対する介助方法の流れについて、写真等を踏まえ解説する			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 「移動・移乗」「食事」「入浴・清潔保持」「排泄」「着脱、整容、口腔清潔」「家事援助」のそれぞれについて、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>移動・移乗の介護</u> (9) ・ <u>食事の介護</u> (3) ・ <u>入浴・清潔保持の介護</u> (6) ・ <u>排泄の介護</u> (6) ・ <u>着脱、整容、口腔清潔の介護</u> (6) ・ <u>睡眠の介助</u> (6) ・ <u>終末期の介護</u> (3) 			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第2巻 介護Ⅰ		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程の基礎的理解 (介護過程Ⅰ)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 24	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 3月第4週目～4月第1週目	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択		
[授業の目的・ねらい] PDCAサイクルのイメージを持てるようになり、根拠や理論に基づいた介護を行えるようになる。 [授業全体の内容の概要] 根拠や理論に基づいた介護という概念そのものの見直しを含め、介護過程についての基礎的な知識について解説する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護過程の意義と目的</u> (3) ・ <u>介護過程の展開</u> (9) ・ <u>介護過程チームアプローチ</u> (12) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第3巻 介護Ⅱ～介護過程～			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程の展開の実際 (介護過程Ⅱ)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 33	時間数(単位数) 27.3時間	配当学年・時期 4月第1週目～2週目		<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	
[授業の目的・ねらい] 具体的な事例に接し、どのように展開していけばよいかをシミュレーションする。					
[授業全体の内容の概要] 事例を基に、実際にどのように介護を行うか解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護過程の実践的展開</u> (1) ・ <u>事例1：施設で暮らす高齢者の介護過程</u> (8) ・ <u>事例2：在宅に暮らす高齢者の介護過程</u> (9) ・ <u>事例3：障害のある人の介護過程</u> (8) ・ <u>演習問題：介護老人福祉施設で生活するTさんの事例</u> (7) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第3巻 介護Ⅱ～介護過程～			[単位認定の方法及び基準] 教科書の演習課題を作成し、提出。 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程の展開の実践 (介護過程Ⅲ)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子	
授業の回数 57	時間数(単位数) 47.3時間	配当学年・時期 4月第2週目～4週目		必修 ・選択	
[授業の目的・ねらい] 介護過程について十分に理解したうえで、原理・原則を踏まえた知識と技術を総合的に活用しながら、一連の過程を利用者の心身の状況に応じて実践したものを評価していく。					
[授業全体の内容の概要] 事例を基に、実際にどのように介護を行うか解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用できる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開</u> (1) ・ <u>事例 1 : 方麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援</u> (14) ・ <u>事例 2 : 在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援</u> (13) ・ <u>事例 3 : 都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援</u> (14) ・ <u>事例 4 : 介護老人保健施設で生活する利用者への支援</u> (15) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第3巻 介護Ⅱ～介護過程～			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 老化に伴うこころとからだの変化 (発達と老化の理解Ⅰ)		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子
授業の回数 12	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 4月第4週目～5月第1週目	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択
[授業の目的・ねらい] 老化に伴う心理的あるいは身体的機能の変化について知り、目の前の利用者の状況を理解できるようになる。			
[授業全体の内容の概要] 老化に伴う心理的あるいは身体的機能の変化を述べ、本人の日常生活への影響について解説する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 ・ <u>こころの変化と日常生活への影響</u> (6) ・ <u>からだの変化と日常生活への影響</u> (6)			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 老年期の発達、成熟と健康 (発達と老化の理解Ⅱ)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 24	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 5月第1週目～2週目		必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 老年期を人生の成熟期ととらえられるようになる。 多く見られる症状・疾病についての知識を得る。					
[授業全体の内容の概要] 老年期も発達段階のひとつであるという視点から、その発達課題や生活上、身体上の課題について述べ、どのように留意すればよいかについて解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 老年期の発達課題、心理的な課題 (老化、役割の変化、障がい、喪失、経済的不安、うつ等) と支援の留意点について理解している。 高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人間の成長・発達</u> (3) ・ <u>老年期の発達・成熟と心理</u> (3) ・ <u>高齢者に多くみられる症状・疾病等</u> (18) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 ころとからだのしくみ			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の基礎的理解 (認知症の理解 I)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 12	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 5月 第2週目～3週目	<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択		
[授業の目的・ねらい] これからの介護で必須となる認知症への理解と、対応する際の基本的な考え方を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 認知症についての基本的な知識を述べ、どのように理解したらよいか、また家族とどのように関わっていくかについて述べ考えていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ今日的な認知症ケアの理念を理解している。 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>認知症ケアの理念と視点</u> (3) ・ <u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u> (6) ・ <u>認知症の人とのかかわり・支援の基本</u> (3) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 ころとからだのしくみ			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の医学的理解と支援の実際 (認知症の理解Ⅱ)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子
授業の回数 24	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 5月第3週目	<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択
[授業の目的・ねらい] 認知症を医学的に理解し、支援ができるようアセスメントを行い、実際の対応で気を付けること、チームや地域の力を活用して支援することができるようになる。			
[授業全体の内容の概要] 認知症についての医学的な見識について述べ、本人に合わせた対応、また地域の力を活用したサポートについて概観していく。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 代表的な認知症の原因疾患、症状、障がい、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 ・ <u>医学的側面からみた認知症の理解</u> (12) ・ <u>認知症の人や家族への支援の実際</u> (12)			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 ころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の基礎的理解 (障害の理解 I)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子
授業の回数 12	時間数(単位数) 10時間	配当学年・時期 5月第4週目	<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択
[授業の目的・ねらい] 障がいの今日的な概念ができあがってきた歴史を理解する。 障害による生活上の障害、それに対応する支援のありかたを理解する。			
[授業全体の内容の概要] 障害者福祉の理念を述べ、障害ごとの特徴やそれに応じた支援の基本を述べる。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史をふまえ、今日的な障害者福祉の理念を修得している。 障害 (身体・知的・精神・発達障害・難病等) による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 障害児・者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数 ・ <u>障害者福祉の理念</u> (3) ・ <u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u> (6) ・ <u>障害児・者や家族へのかかわり・支援の基本</u> (3)			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 ころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の医学的理解と支援の実際 (障害の理解Ⅱ)		授業の種類 (<input checked="" type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 24	時間数(単位数) 20時間	配当学年・時期 6月第1週目～2週目		<input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 障害についての医学的な理解し、支援ができるようアセスメントを行い、実際の支援やチームや地域の力を活用して支援することができるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 障害についての医学的な見識について述べ、本人に合わせた対応、また地域の力を活用したサポートについて概観していく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] さまざまな障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。 障害児・者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 ・ <u>医学的側面から見た障害の理解</u> (18) ・ <u>障害児・者への支援の実際</u> (6)					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 ころとからだのしくみ			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護に関連するからだのしくみ (こころとからだのしくみⅠ)		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習)	授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子
授業の回数 30	時間数(単位数) 25時間	配当学年・時期 6月第3週目～第4週目	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[授業の目的・ねらい] 実際の場面で利用者の力を活用して介助ができるようからだのしくみを学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] 具体的な場面で介助をする際に知っておくべき体のしくみについて解説する。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護に関係したからだの構造や機能に関する基本的な知識を修得している。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>移動・移乗に関連するからだのしくみ</u> (6) ・ <u>食事に関するからだのしくみ</u> (6) ・ <u>入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ</u> (6) ・ <u>排泄に関連するからだのしくみ</u> (6) ・ <u>着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ</u> (6) 			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 こころとからだのしくみ		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 心身の構造・機能と介護における観察のポイント (こころとからだのしくみⅡ)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 小林文恵、村上敦子 宮島好子、笹倉福子	
授業の回数 93	時間数(単位数) 60時間	配当学年・時期 6月第4週目～7月第3週目		必修 ・ 選択	
[授業の目的・ねらい] 人間の心理や身体機能についての基本的な知識を学び、介護に関連した知識を活用して利用者の状態を観察、アセスメントし、他との連携を図れるようになる。					
[授業全体の内容の概要] 人間の基本的な欲求や学習・記憶、ボディメカニクス等、心身の構造と機能、特徴を把握させたいうえで、アセスメントや観察、他職種との連携などを駆使しながら展開する介護についての説明をする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間の基本的欲求に関する基礎的知識を修得している。 学習・記憶等に関する基本的な知識を修得している。 生命の維持・恒常・人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 介護に関係したからだのしくみ、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人間の心理</u> (9) ・ <u>人体の構造と機能</u> (15) ・ <u>移動・移乗における観察のポイント</u> (18) ・ <u>食事における観察のポイント</u> (6) ・ <u>入浴・清潔保持における観察のポイント</u> (12) ・ <u>排泄における観察のポイント</u> (12) ・ <u>着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント</u> (12) ・ <u>睡眠における観察のポイント</u> (6) ・ <u>終末期における観察のポイント</u> (3) 					
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第4巻 こころとからだのしくみ			[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア		授業の種類 (<input type="checkbox"/> 講義) ・ 演習 ・ 実習)	授業担当者 黒田ゆか、田中和子
授業の回数 60	時間数(単位数) 50時間	配当学年・時期 7月第4週目～8月第1週目	<input type="checkbox"/> 必修 ・ 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>喀痰吸引、経管栄養について基本的な事項を学び、演習の基礎知識をつける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医学的な知識を必要とするケアの基礎的知識を解説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>医療的ケアを安全に実施するための基礎的知識について理解している。</p> <p>医療的ケアに関連する法制度や倫理等を理解している。</p> <p>感染予防、安全管理体制等についての基礎的知識について理解している。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>医療的ケア</u> (6) ・ <u>安全な療養生活</u> (6) ・ <u>清潔保持と感染予防</u> (3) ・ <u>健康状態の把握</u> (3) ・ <u>高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</u> (12) ・ <u>高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</u> (9) ・ <u>高齢者および障害児・者の経管栄養概論</u> (12) ・ <u>高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</u> (9) 			
[使用テキスト・参考文献] 『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第5巻 医療的ケア		[単位認定の方法及び基準] 学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア (演習)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 黒田ゆか、田中和子	
授業の回数 21	時間数(単位数) 17.5時間	配当学年・時期 8月第2週目		必修 ・選択	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>喀痰吸引、経管栄養について実践的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>モデル等機器を用いて、実際に喀痰吸引や経管栄養について手順解説のち演習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>喀痰吸引のケア実施の流れ (準備から実施、報告・記録まで) について、評価票に基づき、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。</p> <p>経管栄養のケア実施の流れ (準備から実施、報告・記録まで) について、評価票に基づき、胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養をそれぞれ5回以上行い、評価を得る。</p> <p>救急蘇生法について、心肺蘇生の流れを、1回以上行う。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 喀痰吸引のケア実施の手引き (9) ・ 経管栄養のケア実施の手引き (9) ・ 救急蘇生法の手引き (3) 					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
『介護職員等実務者研修テキスト(450時間研修)』 中央法規 第5巻 医療的ケア			学則第13条に基づく方法および基準で合否判定する		